

堺市 SDGs 未来都市計画（2026～2030）（案）についての  
市民等からのご意見の要旨と本市の考え方

	ご意見の要旨	市の考え方
	○計画全体について	
1	<p>ライフスタイルが多様化し、単独で暮らす世帯が増えている。高齢で先に夫婦のどちらかが亡くなったり、生涯未婚の人の孤独孤立の問題や、離婚による生活困窮など不安や課題が多いのが単独の世帯だと感じる。</p> <p>子育てや生活保護関係の制度は社会の関心の高さから充実されているが、様々な課題があるにも関わらず、単独の世帯は取り残されているように感じてならない。</p> <p>SDGs は持続可能な社会を作ることだと思うので、見捨てる人がいないように広い視野で取り組んでほしい。</p>	<p>ライフスタイルや価値観の多様化等により単独世帯の主流化が進み、行政サービスのあり方や需要に様々な影響を与えると認識しています。単独世帯を含め様々な不安等を抱えておられる方々に対しては、本市では、介護、障害、こども・子育て、生活困窮といった各分野の相談窓口を設け、課題解決に向けた取組を進めています。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、課題の認識や取組をより明確にするため、本計画案の 9 頁に、単独世帯の主流化に関する内容と、15 頁のゴール 3 の主な取組に「複雑化・複合化した生活課題に対応する包括的な支援体制の整備」を追記します。</p>
2	<p>日常生活の中で SDGs を強く意識する機会が多くない中、こうした計画が身近なサービスや暮らしの改善につながるものであることが示されると、より理解しやすくなると感じた。特に、健康づくりの推進や福祉の充実は重要な問題なので、サービスが必要な人に広く伝わるような工夫があると良い。</p>	<p>堺市 SDGs 未来都市計画では、市としてめざす 2030 年の将来像や、経済、社会、環境のあるべき姿を掲げ、それらの実現に向けて優先的ゴールの設定や、各ゴールへの KPI、ゴールに資する市の取組などを設定し、誰一人取り残さない社会の実現をめざして取組を進めています。</p> <p>いただいたご意見は特にゴール 3 に関わるものであり、本計画案において、生活習慣病の啓発やひきこもり対策など健康福祉に関する取組も掲載しています。</p> <p>また、本計画案 25 頁には域内や域外に向けた情報発信について記載しており、引き続き SDGs の理念や各ゴール実現に向けた取組を広く発信します。</p>
3	<p>利用者数や参加率といった量的指標の KPI が多く、どれだけ社会課題が解決されたのかを測る指標が弱いと思う。「KPI の達成 = 課題解決」にならないのではないか。</p>	<p>KPI の達成がそのままゴール実現を意味するものではありませんが、各ゴールの KPI においては本計画案に掲げる 2030 年のゴール実現イメージを見据え、その達成がゴールの実現に寄与すると考えられる指標を設定しています。</p>

		本計画案に基づく施策推進にあたっては、KPIを代表的な指標として進捗管理を行いながら、誰一人取り残さない社会の実現をめざして取組を進めます。
4	17 のゴールに多くの施策が並列して記載されており、限られた財源で何を優先するのかわからない。市民の理解や納得を得るためにも、市として優先投資方針を示してほしい。	17 のゴールは相互に関連しており、どれか一つでも欠けると誰一人取り残さない社会の実現が困難になる重要な目標です。 また、本計画案では SDGs 達成に不可欠な三要素である経済、社会、環境のあるべき姿を定め、経済面ではゴール 8、9、社会面ではゴール 1、3、5、環境面ではゴール 7、12、13 を優先的なゴールに設定しています。 今後も本計画案に基づき、17 のゴールごとに記載する取組を総合的に推進します。
○ 1 将来ビジョン (2) 成果と課題について		
5	さかい SDGs 推進プラットフォームによる主な取組である「エス・パン！」など、ひとり親家庭への応援に取り組んでもらえるのはありがたいと感じるが、私の親は堺市内にひとりで住んでおり、今は元気だが、これから思うように動けなくなるなど考えると、単独高齢者の助けになることなどもやってほしい。	さかい SDGs 推進プラットフォームは、多様なステークホルダーとの連携による SDGs の達成に向けて、令和 3 年 5 月に設立したネットワークになります。「エス・パン！」以外にも、各企業や学校との連携により SDGs 達成に向けた取組を進めており、これまで多くの取組実績を生み出しています。 また、ご意見をいただいた単独高齢者が直面する健康面や経済面などの課題は、本市としても重要な課題であると認識しており、医療、介護、生活支援等が一体的に提供される地域包括ケアシステムの推進に取り組んでいます。今後も単独高齢者を含め「誰一人取り残さない」社会の実現をめざして取組を進めます。
○ 2 自治体 SDGs の推進に資する取組について		
6	SDGs ゴール 3「すべての人に健康と福祉」の主な取組「生活習慣病の啓発、対策の推進(3.4)」、「健康寿命延伸に資する健康増進活動の推進(3.8)」、「たばこの危険性の啓発、受動喫煙対策の推進(3.a)」に特に関連して、各所に設置されるパーテーションによる囲いだけの指定喫煙所について、受動喫煙の危害を及ぼすにも関わらず設置が進められることに疑問を感じる。 また、たばこ産業の関連事業者からの指定喫煙所の設置の費用負担を受けることは「たばこ規制枠組	ゴール 3「すべての人に健康と福祉を」の達成に向けて、主要な健康課題の一つである喫煙及び受動喫煙の減少が重要であると考えています。そのため、市民が主体的に生活習慣の改善等に取り組み、喫煙者が減少するよう、たばこの危険性に関する啓発を進めています。 なお、指定喫煙所については、関係法令等を踏まえた施設の設置を進めており、たばこ産業関連の事業者からの負担によって施設を設置することについては、現在、事業者からの寄附受

	<p>条約」に違反している。</p> <p>さらに、喫煙者を減らすための取組や啓発も行ってはどうか。</p>	<p>納を禁ずるような国内法は存在しません。また、指定喫煙所は喫煙を促進するための施設ではなく、マナーを守るための施設であり、主に路上喫煙やポイ捨ての防止を目的としていることから、事業者からの指定喫煙所の設置の費用負担は「たばこ規制枠組条約」に違反していないと考えています。</p>
7	<p>温室効果ガス排出量削減の KPI が「市域」から「市の事務事業」へと変更され、目標が後退したように感じる。脱炭素先行地域に選定された堺市としては、市域全体の脱炭素化をめざす KPI が必要ではないか。</p>	<p>各ゴールの KPI においては、2030 年のゴール実現イメージに適合することや、KPI 設定の考え方（定量的な指標であること、できる限り毎年度、数値を把握できる指標であること、本市が主体的に把握できる指標であること、数値の変動要因を把握、分析できる指標であること、外部要因の影響が大きすぎない指標であること）に沿って設定しています。</p> <p>ご意見をいただきました現行計画のゴール 13 の KPI「市域の温室効果ガスの排出削減量」については、数値の把握に 3 年のタイムラグがあることや、国が公表する様々な統計データから按分等して算出する必要があるなど、毎年度の KPI による施策効果を測る上で課題がありました。</p> <p>そのような中、市内事業所の中で 4 番目に温室効果ガスの排出量が多い本市が率先して脱炭素化に取り組み、民間企業の取組に波及させることで市域の温室効果ガス排出量の削減につなげることが重要と考え、「市の事務事業からの温室効果ガス排出削減量」を新たな KPI に設定しました。</p>
○その他市政全般について		
8	<p>未来を担う子育て世代を応援するため、小中学校の学校給食費を無償化してほしい。</p>	<p>学校給食費の無償化は、子育て世帯の負担軽減や教育機会の公平性に資する観点から、SDGs のゴール 1「貧困をなくそう」やゴール 4「質の高い教育をみんなに」に資する重要な取組であると認識しています。</p> <p>本市では令和 7 年度から小学校給食費の無償化を段階的に実施しており、市立の小学校（特別支援学校小学部を含む）1、2 年生はすでに無償化しています。また来年度は市立の小学校の全学年及び中学校（特別支援学校中学部を含む）の無償化を予定しています。今後も子育て世帯の経済的負担の軽減に努</p>

		めながら、安全で安心な学校給食を提供できるよう取り組みます。
9	堺市に住みたいと思うには、スーパーや販売店などの施設がそろっていることが前提と考えるが、特に泉北ニュータウンはその点で脆弱性を感じる。65 歳以上の市民には 100 円でバスに乗車できる支援があるが、65 歳未満への支援がなく乗車賃が高額であることなどからも、徒歩圏内にスーパーや販売店を充実させることが必要。ブランドづくりの前に、市民が住みやすい地域にする必要がある。	本市では、人口減少や高齢化の進行などの課題に対し、定住人口の増加や、都市の魅力向上に向けて、各種計画に基づく施策を進めています。 なお、泉北ニュータウンについては、本計画の 3 推進体制（1）各種計画への反映の項目にも記載している「SENBOKU New Design（令和 3 年 5 月策定）」に基づき、「持続発展可能なまち」を実現するため、身近な場所への生活を豊かにする商業・サービス施設の誘導等に取り組んでいます。 今後も住み続けたいと思われる都市をめざし、取組を進めます。
10	重度障害者向けの支援はあるが、軽度の障害、特に発達障害に対する支援が無く、発達障害児が増えている中、堺市で子どもを産み育てることをおすすめるできない。誰一人取り残さない幅広い世代への支援が必要。	本市では、発達障害児（者）やその家族の方たちが地域で安心して生活できるよう、堺市健康福祉プラザに設置する堺市発達障害者支援センターや各区障害者基幹相談支援センター等において、日常生活に関わるさまざまな相談をお受けし、関係機関と連携を図りながら、家庭や施設の支援方法についての助言、情報提供などを行っています。発達支援、就労支援などのライフステージに応じた支援についても、市民や関係機関に対し普及啓発、研修などに取り組んでいます。 また、発達障害児（者）についても、障害福祉サービス等を利用し、支援を受けられる環境を整えています。 今後も障害のある方を含め「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、誰もが安心して暮らせる環境整備に取り組めます。
11	フェニーチェ堺で実施される演目が特定の分野に感じるため、幅広く実施してもらいたい。	フェニーチェ堺については、幅広い世代が楽しめる事業を企画しており、クラシックやポップカルチャー、歌舞伎や落語など多様なジャンルの演目の上演に努めています。いただいたご意見は参考意見として、今後も魅力ある文化・芸術を発信します。
12	男の子にも HPV ワクチンの助成をお願いします	男性に対する HPV ワクチンの接種に関して、現在、国においてその有効性や安全性等について議論がなされています。男性への公費助成については、引き続き国等の動向を注視します。

13	<p>堺の強みである陸・海のアクセスを活かし、万博で実施した船を活用した移動を関空・神戸方面へ拡大することを検討してほしい。また、阪堺電車の延伸や低床車両導入、電停改修など大阪市との連携による公共交通の利便性向上を求める。</p>	<p>公共交通の充実は、すべての人が移動しやすい環境整備という観点から、SDGs のゴール 11「住み続けられるまちづくりを」に資する重要な取組であると認識しています。今後も関係機関と連携しながら船の活用や阪堺電車の活性化に取り組めます。</p>
14	<p>堺市西区の遮断機のない踏切を放置せず、対策を講じるべきではないか。</p>	<p>踏切の安全確保は、SDGs のゴール 11「住み続けられるまちづくり」に資する重要な取組であると認識しています。また、ご意見をいただいた遮断機及び警報機の無い阪堺線石津 2 号踏切道の解消については、令和 6 年度より事業を開始し、令和 7 年 12 月 3 日に遮断機と警報機の設置が完了しています。</p>